



東京の介護ってすばらしい!

★グランプリ★

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会 主催

東京都高齢者福祉施設協議会とは?
東京都高齢者福祉施設協議会(高齢協)は、東京都内の特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、デイサービスセンターを会員とする組織です。(会員数約1,200施設・事業所)



高齢者福祉施設における日常のさまざまな場面にスポットライトをあてながら、介護の仕事の魅力を広く伝える目的によって開催される「東京の介護ってすばらしい! グランプリ」イベント。本年度はホームページ部門、ランチ部門、メッセージ部門について、高齢者福祉施設・事業所の職員・利用者・ご家族より募集をしました。本特集ではグランプリの作品と受賞者のインタビューを紹介します。



INTERVIEW

訪問者の分析とアクセス解析を重視

現在のホームページは2年前にリニューアルしました。更新前は情報を載せているだけの状態でしたが、上司からの「ホームページを戦略ツールの一つとして活用したい」という意見を受け、改修に踏み切りました。

改修ではまず閲覧する方を意識しました。たとえば利用を検討する50~60代のご家族の方やケアマネジャーはパソコンとスマートフォンを使いますし、就職を希望する学生はスマートフォンのウエイが高くなっています。そのため、それぞれの端末に対応したサイトに調整しました。

運用は外部に委託し、毎月アクセスを解析して更新案を打ち合わせています。検索エンジンで表示されやすくすることも意識しています。サイトの到達点として施設に電話やメールでお問い合わせをいただくことを設定し、解析に基づいてプロモーションを考えています。

動線と写真を重視して雰囲気伝える

サイトの動線も工夫しています。たとえば利用者が最も興味のある情報は料金体系ですが、そこに至るまでに施設の雰囲気やサービスの強みを感じられるようにして、滞在時間を長くしています。ご利用者からも求職者からも、施設が選ばれるためには表情と雰囲気が大切ですので、写真やデザインはそれを重視しています。トピックスはリアルタイムな情報を伝えることに重点をおき、更新頻度を高めることでご家族に安心感を伝えています。水曜日にサイト閲覧数が最も増えるので、それに合わせて更新をしています。

現在の取り組みとして、データでは21時に閲覧数が増える傾向があり、その方がどういった方なのかを分析して望まれる情報を検討しています。また、採用ページは現在新卒の閲覧率が高いため、転職者やパートの方がアクセスしやすいページを設けたいと思います。

サイト運営ではデータの分析と当施設の強みを掛け合わせていくことが大切で、これからも技術の進歩に合わせて改善していきます。

審査員からのコメント

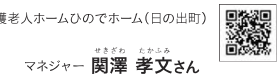
大きな写真とコピーを効果的に使って利用者にアピールしていると感じました。活動報告が、とにかく明るくて楽しそうでした。

受賞一覧

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 優秀賞 多摩同歩会 岩本町ほほえみプラザ(千代田区) | 入賞 同胞互助会 愛全園(昭島市) |
| 大三島育徳会 博水の郷(世田谷区) | 恵比寿会 フェローホームズ森の家(立川市) |



URL
<https://www.h-sunrise.com/hinode-home/>



社会福祉法人 芳洋会 特別養護老人ホームひのでホーム(日の出町)
総務部 総務課
マネジャー 嶋田 宏昭さん マネジャー 関澤 孝文さん

1月26日に 江戸東京博物館で開催された 「東京の介護ってすばらしい! グランプリ」 イベントでは、 表彰式とさまざまな催しが開かれ、 盛況に終わりました。

当日のプログラム

- 小池樹里杏さん ミニコンサート
- スペシャルゲスト講演 東国原 英夫さん 「ピンチをチャンスに」 桂 歌春さん 「ONE TEAM 介護する人される人」
- 「東京の介護ってすばらしい! グランプリ」 入賞作品の発表および表彰式 プレゼンター: 町亞聖さん (フリーアナウンサー)
- 若手介護職員ユニット 東京ケアリーダーズによる「東京五輪音頭を踊ろう with 東京ケアリーダーズ」



雲の上の存在

「し……、し……。」
人は最期、声にならない声を送る。音取り対応中だったAさんは、私の目を見て、何か訴えようとした。「死にたい」と言われたら、何と応えれば良いだろう。一瞬、身構えた。と同時に、思わぬ言葉が返ってきた。
「親切にしてくれて、ありがとう。もう心配いりません。」
いつも周りを気遣うAさんは、最期の最期までAさんだった。弱音を吐かず、思いやりの心を忘れず、旅だった。いつまでも、私の憧れの人です。



東京都 A.Kさん
審査員からのコメント
Aさんの描写がすばらしく、いのちの尊さ、こういふ方に看取ってもらいたいと感じました。
受賞一覧
優秀賞
介護人を幸せにする仕事 F.T.Vさん 82歳、私の夢 S.Sさん

ランチ部門 最優秀賞

メニュー
「これ食べてあったま〜御膳」
土鍋でたらこごはん、
つくね汁、信州蒸し、
薄切りれんこんのえびはきき、
わさび和え、さつま芋のおしるこ

作品のアピールポイント
誕生日会で出してみてもご利用者にご満足いただけただけメニューです。寒い冬のランチというテーマだったので、温かさを表現するためにフォイルムをたくさん取り入れました。

社会福祉法人 東京弘済園 養護老人ホーム弘寿園(三鷹市)
(左から順に)
小川 貴広さん 田中 浩代さん 宇野 剛さん

INTERVIEW

見た目のコンセプトをそろえ、味のメリハリをつける

テーマが冬の行事食でしたので、調理師の郷土料理である信州蒸しをメインに施設の誕生日会で提供したメニューで応募しました。季節感を出すことで、ご利用者の日ごとの食事への感想を取り入れることを意識しました。

インパクトのある料理だけでは飽きてしまうため、品数を多くして味のメリハリをつけています。予算内に収めるため、使用する食材でアレンジも加えています。高齢者は固いものを食べるのが難しいのですが、蓮根は硬く仕上がらない程度の薄さにスライスしてえびを挟むことで、食感を残しつつ飲み込みやすくなっています。

視覚や雰囲気でも楽しんでいただける工夫をしました。丸いお皿を使い、食材を丸くカットして、温かみを感じられるようにしています。また、土鍋で炊いたご飯を目の前でよう演出し、ご利用者からも好評でした。

調理時の声かきで手順を最適に

グランプリへの参加は2度目となりますが、昨年の反省点を活かして準備を行いました。普段と異なる調理環境で迅速にメニューを完成させるよう、練習を3回行いました。本番では全員で味見をする、時間の確認、調理時の声掛けを行うなど普段のルーティンも意識することで、リラックスして取り組みました。

普段のメニュー作りでも、調理師が意識したメニュー案を栄養士がご利用者向けに調整する、よい連携ができています。

グランプリで受賞できたことはとてもうれしい事ですが、現場で他の施設の食材の使い方や調理法を見て学べたことは勉強になりました。この経験を活かして、今後も施設でおいしく残さず食べていただける食事の提供に取り組んでいきます。

受賞一覧

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 優秀賞 青芳会 今井苑(青梅市) | 入賞 長寿村 足立期裕園(足立区) |
| 三徳会 品川区立原特別養護老人ホーム(品川区) | 亀鶴会 神明園(羽村市) |



グランプリ審査員★フリーアナウンサー 町亞聖さんコメント

東京都高齢者福祉施設協議会のアンバサダーを務めさせていただき、グランプリの審査に関わるのも3回目となりますが、毎年作品の質が高まっていると感じます。メッセージ部門では看取りに関する作品が多くありました。実は私の祖母も昨年97歳で亡くなりましたが、最期の数年間は特別養護老人ホームでお世話になりました。「天国は遠い人に入るといい。そして自分には遠い人がたくさんいる」。こんな風に表現した在宅のドクターがいましたが、祖母は今ごろ先に旅立った母(娘)と再会していると思うと少し悲しみが和らぎます。これから多くの看取りと向き合う介護職、おひとりおひとりと記憶に残せるほどの絆を築けることはとても大切で、そしてそんな出逢いができる介護は幸せな仕事だと思います。あなたがそばに居てくれて良かったと思ってもらえる職員であり、施設であることを目指してほしいと思います。

★ ホームページ部門
情報量が多いだけでは伝わりにくいこともありますが、施設の特長を明確にし、もっと見たいと思える工夫が必要で、受賞したホームページはスタッフが忙し中でも頻りに情報更新をしていました。ご利用者や学生に施設を知ってもらう入り口となるホームページ、ここで得られた情報は、働きたい、働きたいと思えるような笑顔を送ってほしいです。

★ ランチ部門
味や見た目、利用者の食べやすさなどに配慮したすばらしいランチが多かったのですが、一番見ていただきたいのは調理場面だと思ふほど、チームワークの取れた施設が多くありました。限られた予算の中で利用者の声を取り入れさまざまな工夫をされていました。食事は生きようという気持ちの大きな原動力です。みなさんの日々の努力に敬意と大きな拍手を送りたいです。

★ メッセージ部門
受賞作品は書き出しがすばらしく、短いメッセージの中で利用者さんとスタッフの間で信頼関係が構築された日々や、利用者さんの人柄も表現されていました。また、入賞作品(82歳、私の夢)は何語になっても夢を待つことができることを教えてくれます。介護する側とされる側の関係を越えたケアが東京の各地で行われていることが伝わったメッセージが多くありました。